

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）



出願人代理人 特許業務法人 池内・佐藤アンドパートナーズ 様 あて名 〒 530-6026 日本国 大阪府大阪市北区天満橋 1-8-30 OAPタワー 26階

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

01.2.2005

出願人又は代理人 の書類記号 H2168-01	今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/016233	国際出願日 (日.月.年) 01.11.2004	優先日 (日.月.年) 04.12.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl ⁷ G11B7/135		
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社		

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日 19.01.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 吉川 潤 電話番号 03-3581-1101 内線 3550	5D 9651

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-19	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-19	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-19	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

文献1: JP 2003-99975 A (オリンパス光学工業株式会社)
2003.04.04 (ファミリーなし)

文献2: JP 11-31337 A (ソニー株式会社)
1999.02.02 (ファミリーなし)

文献3: JP 11-339305 A (株式会社ニコン)
1999.12.10 (ファミリーなし)

文献4: JP 6-168451 A (ソニー株式会社)
1994.06.14 (ファミリーなし)

文献5: JP 5-189833 A (日本電気株式会社)
1993.07.30 (ファミリーなし)

文献6: JP 2001-344800 A (旭硝子株式会社)
2001.12.14 (ファミリーなし)

・請求の範囲1-4, 6について、文献1-4

文献1には、半導体レーザLD1, 対物レンズ6, 情報信号を検出するための光検出器PD11を備えた多層光ディスク8の記録再生装置が記載されている。

文献2には、トラックピッチを再生波長の1.3倍以下とした多層光ディスクが記載されている。

記録容量を大きくするために、再生光の偏光方向を情報記録媒体のトラック方向と垂直な方向とすることは、文献3, 4に記載されている通り周知である。

文献1に記載の多層光ディスクの記録再生装置において、文献2のトラックピッチを再生波長の1.3倍以下とする技術、および文献3, 4の再生光の偏光方向を

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 2 欄の続き

情報記録媒体のトラック方向と垂直な方向とする技術をそれぞれ適用することは、当業者にとって容易なことである。

- ・請求の範囲 5 について、文献 1-4

光学部品を用いて再生光の偏光状態を変換させるか、偏光方向を予め情報記録媒体のトラック方向と垂直な方向となるように半導体レーザを設置させるかは、当業者が適宜選択しうる設計事項である。

- ・請求項 7-10, 13, 14 について、文献 1-5

文献 5 には、再生用の短い波長の半導体レーザ 16 と記録用の長い波長の半導体レーザ 15 とを備え、パルス光を用いて記録を行う技術が記載されている。

文献 1 に記載の多層光ディスクの記録再生装置において、文献 5 の再生用の短い波長の半導体レーザと記録用の長い波長の半導体レーザとを備え、パルス光を用いて記録を行う技術を適用することは、当業者にとって容易なことである。

- ・請求の範囲 11, 12 について、文献 1-6

文献 6 には、一方の波長に対しては $\lambda/2$ 板として作用し、もう一方の波長に対しては $\lambda/4$ 板として作用する位相子 101 が記載されている。

- ・請求の範囲 15-17 について、文献 1-4

文献 1 には、ディスクからの反射光をホログラム 4 を用いて 0 次光と ± 1 次光に分離し、0 次光をピンホール 9 を通して情報信号を検出するための光検出器 PD 11 で受光し、 ± 1 次光をそれぞれフォーカス用光検出器 PD 10, トラッキング用光検出器 PD 12 で受光する技術が記載されている。

- ・請求の範囲 18, 19 について、文献 1-4

記録マークをボイドとするかピットとするかは、情報記録媒体の種類に応じて適宜なし得る設計事項である。